



## 2017 夏休み企画特集



今年も『夏休み自由研究講座』を開催しました。

資料館では、夏休み企画第1弾として、7月28日（金）、29日（土）に『夏休み自由研究講座～イタイタイ病を学ぼう～』を開催しました。2日間で県内の小学1～6年生とその保護者27組58名が参加し、イタイタイ病の自由研究に取り組みました。

参加者は、まず、ガイダンス映像を視聴したあと、イタイタイ病対策協議会顧問で、患者ご遺族の高木良信さんより自らの体験を交えながら資料館の展示解説をしていただきました。

語り部でもある高木さんの展示解説では、子どもたちだけでなく保護者も熱心に耳を傾けておられました。時折、積極的に質問もしておられる場面もあり、イタイタイ病の被害の実態やその恐ろしさについて理解を深めているようでした。

また、解説の合間には、ワークシートを用いたクイズを行い、展示や映像に隠された答えを見つけるために親子で協力して答え探しに取り組みました。

自由研究講座の後半では、富山市科学博物館の<sup>ほうの</sup>木英治氏を講師としてお迎えし、川の水質を調べる実験を行いました。実験では、検査キットを使用して神通川・四ッ谷川・生活排水（米の研ぎ汁）の3種類の汚れの程度を実際に測りました。皆さん慣れない手付きながらもそれぞれの水の汚れを計測し、実験を通じて清流を維持することの重要性を学びました。

参加者のアンケートの中には、「イタイタイ病の恐ろしさや患者の苦しみが理解できた」や「改めて環境保全の大切さを感じた」など様々な意見や感想があり、それぞれが自分なりの捉え方でイタイタイ病について考えた2日間でした。



高木良信さんによる展示解説



川の水質を調べる実験

『日帰りバスツアー』で子どもたちがイタイイタイ病ゆかりの場所を巡りました。

8月4日（金）には、夏休み企画第2弾として、『イタイイタイ病を学ぶ日帰りバスツアー』を開催し、朝から強い日差しが照りつける中、小学5～6年生とその保護者ら21名が参加されました。

一行は、資料館でイタイイタイ病についての歴史を学んだあと、バスに乗り込み、富山市塩地区にあるカドミウム汚染から復元した農地（水田）を見学し、資料館職員から復元工事の方法などについて説明を受けました。

その後、バスは岐阜県飛騨市の神岡鉱業株式会社へと向かい、まず工場から排出された汚れた水や不要な物をためておく和佐保たい積場を見学しました。参加者は、和佐保たい積場のスケールの大きさに驚きながらも、会社よりたい積場や山の周囲を取り巻く山腹水路についての説明を聞き、施設の果たす役割について詳しく学びました。

午後は、神岡鉱業株式会社の鹿間工場へ移動し、会社の事業説明を受けた後、工場内にある排水管理センターや排水処理を行うシックナーを見学し、工場内の排水が現在どのように処理されているかについて学びました。

最後には、富山市婦中町の富山太陽光発電所PR館を見学し、かつてカドミウム汚染地であったところに設置された施設で地球環境に優しい再生可能エネルギーについて楽しく学び、バスツアーを終えました。

このバスツアーでは、普段立ち入りできない場所の見学・体験が子どもたちの印象に強く残ったことがアンケート結果からもよくわかりました。

資料館では、子どもたちが直接見て、聴いて、触って体験できるような企画や親子で一緒に学べる機会を提供する企画を、関係者の協力を得ながら今後も開催していきたいと考えています。



復元田（富山市塩地区）の見学



富山太陽光発電所PR館の見学